

科目区分	専門教育科目	授業科目名	手話講座			科目コード	24L505	担当者	下瀬 和枝			担当形態	単独			
対象学科・コース	生活創造学科 ビジネス・医療秘書コース	配当年次	1年次	開講学期	前期	単位数	1	必修・選択の別	必修	免許・資格要件						
授業形態	演習	履修条件										教育職員免許法施行規則に定める科目区分等	科目区分			
実務の経験を有する教員担当科目			実務の経験内容及び科目との関連												科目に含まれることが必要な事項	

授業の主題	聴覚障害者のコミュニケーション方法を学び、そのコミュニケーション方法の1つである手話を学ぶ事により、将来の仕事に役立つようにする	課題等への対応 (フィードバックの方法等)	外部講義の後はレポートを提出、学習成果を確認し助言する。練習問題を何度も繰り返し実施し自分の力を振り返る 授業で習った内容を、テキストを使い復習する
授業の方法	パワーポイントを使用。講師の手の動き、表情を見て模倣、各講座で習得した手話で、対話・グループでの会話、また、最終的にろうあ者とコミュニケーション体験をする。	アクティブ・ラーニングの実施方法	特定のテーマについてのディスカッションを通して理解を深める方法を用いる

回数	授業計画	事前・事後学修	回数	授業計画	事前・事後学修	
第1回	『手話を学ぶ心構え』 実技 講座1「自己紹介をしてみよう」自分と家族	手話、聴覚障害者について自分なりにイメージ	第9回	『日本聴力障害新聞』 実技 講座8「お天気と乗り物の手話を覚えよう」スポーツや乗り物	予習：スポーツ等をジェスチャーで伝える工夫	
第2回	『聴覚障害とコミュニケーションの基礎知識』 実技 講座2「挨拶してみよう」名前	聴覚障害の種類、コミュニケーション手段、指文字の予習	第10回	『手話言語条例』 実技 講座9「買い物とお金の表現を覚えよう」色	復習：スポーツ等の表現 予習：手話言語条例を調べてくる	
第3回	『聴覚障害者について』 実技 講座3「手話が分からなかったとき」会話	復習：自分の名前、家族の表現 予習：手話以外の方法	第11回	『聞こえなくて困ること』 実技 講座10「ろう者の生活を知らろう」経験談	復習：お金、色の表現 予習：ろう者の困りごとをイメージ	
第4回	『手話の成り立ち』 実技 講座4「数字や時間の表現を覚えよう」	復習：会話の表現 予習：数字の表現	第12回	『防災について』 実技 講座11「災害に関する手話を学ぼう」天気	予習：災害時の聴覚障害者の現状を調べてくる	
第5回	『手話サークル』 実技 講座5「趣味のことを話そう」	復習：数字、指文字表現 予習：趣味をジェスチャーで表現	第13回	『ろう運動』 実技 講座12「今まで学んだ手話を活かして話してみよう」	復習：天気、指文字、数字などの表現	
第6回	実技 講座6「行きたい場所の表現を覚えよう」講座1～6の復習	復習：数字、指文字、問い 予習：会話内容を考える	第14回	窓口対応の実践 自己紹介 復習	予習：窓口で発生する会話例を出す	
第7回	特別講義 「ろうあ者の生活」 長崎県ろうあ協会（レポート提出）	予習：聴覚障害者の生活をイメージ	第15回	手話でのコミュニケーション体験（ろうあ者と話そう）	復習、予習：習った手話の確認と、スムーズな会話の練習	
第8回	『手話通訳』 実技 講座7「病気やけがで困ったとき」	復習：講義を受けてレポート作成 予習：病気等イメージ			事前・事後学修時間 (分/授業1回)	45分/授業1回

教科書 [書名/著者名/出版社]	聴さんと学ぼう！／一般財団法人全日本ろうあ連盟	受講生へのメッセージ	コミュニケーションの基本はお互いの顔や表情を見て話すこと。特に手話は「視る言葉」です。しっかり相手を見て会話をしましょう。コミュニケーション、通じることの楽しさを体感してください。
参考書 [書名/著者名/出版社]	初回到補助資料として講師作成の印刷物を配布する		

評価基準																
	学修成果の大分類	学修成果の中分類 [10の力]	配点比率(%) 学修成果の	評価方法の配点比率(%)					学修成果の小分類			尺度				
				定期試験	臨時試験	提出物	発表内容	受講態度	実習評価	学修成果の到達目標	修得する能力	評価方法/評価指標	レベル5 (S:100~90%)	レベル4 (A:89~80%)	レベル3 (B:79~70%)	レベル2 (C:69~60%)
観点	尽心	① 学習意欲	10		5		5	聴覚障害者を理解し、基礎的な挨拶や自己紹介ができ簡単な窓口対応ができるようになる	聴覚障害者とのコミュニケーション能力	提出物、受講時の態度	聴覚障害者を十分理解し、手話で挨拶や簡単な窓口対応ができる	聴覚障害者を理解し、手話で挨拶ができ、窓口対応がある程度できる	聴覚障害者を理解し、手話での挨拶は出来るが基礎的な窓口対応に不安が残る	聴覚障害者の理解はある程度あるが手話での対応が挨拶のみで基礎的な窓口対応が難しい	聴覚障害者についての理解が不十分で窓口対応が手話では難しい	
		② 規律性														
	知識・技能	③ 知識														
		④ 技能														
	創造	⑤ 情報活用能力														
		⑥ 課題解決力														
	表現	⑦ 言語活用能力	40	30				10	手話の単語、文法を習得し聴覚障害者と簡単な日常会話ができるようになる	手話での話す力、読み取る力	筆記試験、受講態度	手話の単語、文法を習得し聴覚障害者と簡単な日常会話ができる	手話の単語、文法を習得し聴覚障害者とある程度簡単な会話ができる	手話の単語、文法を習得し聴覚障害者と決まった内容の会話なら出来る	手話の単語、文法の習得が不十分で聴覚障害者との会話に難点がある	
		⑧ コミュニケーション力	40	30				10	聴覚障害者が理解でき、相手のいう事を理解し簡単な窓口対応が手話でできるようになる	手話でのコミュニケーション能力	筆記試験、受講態度	聴覚障害者が理解でき、相手のいう事を理解し簡単な窓口対応が手話で出来る	聴覚障害者が理解でき、相手のいう内容がある程度なら手話で出来る	聴覚障害者が理解でき、特定の人とならある程度手話で会話出来るが不安が残る	聴覚障害者の理解が不十分で手話で会話をするのが難しい	
	実践	⑨ 主体性	10	5				5	聴覚障害者を理解しいろんな人またいろんな場所で積極的に会話ができるようになる	聴覚障害者とのコミュニケーション能力	筆記試験、受講態度	聴覚障害者を理解し、いろんな人またいろんな場所で積極的に会話ができる	聴覚障害者を理解しいろんな人またはいろんな場所である程度会話出来る	聴覚障害者を理解し一定の人、決まった場所ならある程度会話出来る	聴覚障害者の理解が不十分で積極的に会話をするのが難しい	
		⑩ 協働性														
合計			100	65	5		30									